第３学年　国語科　学習指導案

【本時の主張】
文学作品は，次の二つの読み方に大別される。
ａ　自分の体験を重ねながら，想像力豊かに自由に読む。
ｂ　書かれた背景等を調べ，作者が表したかった思いを想像して読む。
どちらの読み方も大切であり，ａ，ｂ両方の方法で読むことが，作品を読み深めることになる。
短詩型文学である俳句を教材として，上記の＜作品を読み深める姿＞を目指す。俳句の中でも，松尾芭蕉の作品を教材として用いる。その意図は，次の２点である。
＊短いがゆえに，読者が自由に解釈できる余地が多い。
＊作品に，蕉風（幽玄・閑寂の境地）が貫かれている。
本時ではまず，「『古池や蛙飛び込む水の音』で，古池に飛び込んだ蛙は何匹か？」と問う。最初は，自分の体験を基にしながら自由に発想し，各自が作品世界を楽しむ。次に「芭蕉は，何匹の蛙を想定したか？」と問う。すると生徒は，これまで学習してきた「旅立ち」「平泉」「立石寺」から学んできた芭蕉のものの見方，考え方を根拠に，意見を述べる。その過程で「蕉風とは何か？」や「芭蕉が表したかった思いとは何か？」に気付いていくのである。

１　単元名

作品世界を読み深めようー松尾芭蕉『おくの細道』

２　単元の目標

○　『おくのほそ道』の「平泉」「立石寺」や，松尾芭蕉に関する複数の資料を読み比べることを通して，「古池や蛙飛び込む水の音」に描かれた蛙の数を想像し，そう考えた根拠を明確に述べることができる。

３　単元と指導の構想

「古池や蛙飛び込む水の音」は，松尾芭蕉が創作した中で時代を超えて最も人気があり，最も有名な俳句である。芭蕉の弟子である仙化が『蛙合』という俳書に発表した直後から話題となり，以後，「古池」句に関する評論文は数え切れないほど存在する。興味深いのは，「古池」句に描かれた蛙の数を「単数」と解釈して評論する者（ほとんどがこの解釈）と，少数ではあるが「複数」と解釈して評論する者とがいることだ。
例えば，正岡子規は単数と解釈し「それはただそのままの理想も何もなき句と見るべし」と低い評価を下す。一方で，金子兜太は「蛙は多数」と解釈し，生命の躍動が「古池」句の主題だとする見方を示す。ラフカディオ・ハーンは「Old pond-frogs jumped in-sound of water.」と，ドナルド・キーンは「an old pond: noises of frogs leaping in」と，両者とも「複数の蛙」と解釈して英訳している。このように，多様な解釈がなされる理由は２つある。
ａ　「短詩型」という表現形式ゆえの読み手の自由な解釈
ｂ　「蕉風」をどう解釈するかの違い
「古池」句という学習材をもとに，生徒に求めたいのは「Ａ‥自分の生活経験や価値観を根拠として蛙の数を述べる姿」「Ｂ‥古池句に関する資料の記述を根拠として蛙の数を述べる姿」「Ｃ‥『おくのほそ道』の記述から読み取った芭蕉の価値観（蕉風）を根拠として蛙の数を述べる姿」である。もちろん，Ａ→Ｂ→Ｃと難易度はあがっていく。Ｂ，Ｃの姿に近づけるために，前述のような「古池」句に関する資料を複数提示し，内容についての理解を促すことを一つ目の手だてとする。『おくのほそ道』の「平泉」「立石寺」の読解を通して，「夏草や兵どもが夢の跡」「閑かさや岩にしみ入る　蝉の声」に凝縮されている芭蕉の価値観を一人一人に読み取らせることを二つ目の手だてとする。

４月から，指名なし討論を中心とした授業を展開し，生徒には根拠を明確にして意見を述べるように求めてきた。意見の質はもちろん，さらなる改善が必要である。しかしながら，少なくとも意見と根拠の整合を意識して述べようとする生徒がほとんどである。

この学習を通して，前述したＡ，Ｂ，Ｃの姿を目指す。それはすなわち「文章を読み比べるなどして，構成や展開，表現の仕方について評価すること」（学習指導要領３年「読むこと・内容」ウ）「歴史的背景などに注意して古典を読み，その世界に親しむこと」（学習指導要領３年〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕ア）という学習内容を達成した姿である。

４　指導と評価の計画（本時５／５時間目）

学習内容・学習活動	予想される生徒の反応・教師の支援	評価・留意点
①芭蕉や『おくのほそ道』の概略を知る。 【３年伝統ア】	指示：「旅立ち」から，芭蕉の「人となり」に関することを読み取り，ワークシートにまとめなさい。	資料から何に価値を見出した人なのかをおさえる。 読み取ったことを根拠に芭蕉の人物像を書いている。
②「平泉」で芭蕉が表したかった思いをとらえる。 【２年読むことエ】	発問：「時の移るまで涙を落とし」たのはなぜですか。 発問：「夏草」句で芭蕉が表そうとしたのは自然の生命力ですか，それとも人間の矮小さですか。	「自然の生命力の逞しさ」という解釈も必ずおさえる。 「夏草」から読み取ったことを根拠に蕉風とは何かを書いている。
③「立石寺」で詠んだ「閑かさ」句に表れた書き手の価値観をとらえる。 【２年読むことエ】	発問：鳴いている蝉は１匹ですか。それとも数多くの蝉ですか。そう考えたのはなぜですか。 指示：１匹の蝉だとしたときに芭蕉がこの俳句で表そうとしたことを書きなさい。	「蕉風」とは何か？を文章記述や，鳴いている蝉の数と関連付けて，自分なりに表現させる。 「立石寺」から読み取ったことを根拠に蕉風とは何かを書いている。
④「古池」句に描かれた蛙の数について根拠を明確にして述べる。（本時） 【３年読むことウ】	発問：「古池」句に描かれた蛙は何匹ですか。そう考えたのはなぜですか。 発問：芭蕉は「古池」句に何匹の蛙を思い浮かべましたか。そう考えたのはなぜですか。 ○「夏草」句で，芭蕉は自然の生命力の逞しさを表現しようとした。ゆえに，蛙も数多	最初は生徒の自由な発想で意見を述べさせ，授業中盤で「芭蕉は？」と問うことで既習事項や資料と関連付けるようにする。

	くいると考えた。 ○「蕉風」は余韻です。だから，蛙は１匹がいい。	多様な考えが全体に見えるように工夫する。 根拠を明確にして蛙の数を述べている。

５　本時

(1) ねらい

根拠を明確にして意見交流する活動（討論）を通して，「古池や蛙飛び込む水の音」に描かれた蛙の数を想像し，そう考えた理由を自分なりに述べることができる。

(2) 生徒の実態

４月より『虹の足』『形』『俳句の世界』『パネルディスカッション』の授業で，根拠を明確にして自分の意見を述べる学習活動を継続的に行ってきた。指名を待つのではなく，自ら進んで意見を述べるように働きかけてきた。結果，仲間の意見に関連付けながら，論理的に意見を述べることまではできないが，自信を持って自分の意見を表明できる生徒の数は，徐々に増えつつある。

古典教材については１年生時に『竹取物語』で古典の世界に触れ，２年生時に『平家物語』『枕草子』『徒然草』で古典の世界を楽しみ，いよいよ古典の世界に親しむ段階へと進んでいる状況である。

(3) 本時の構想

本校研修課題「自己の生き方を求め，学び続ける生徒の育成～思考力・判断力・表現力を育てる指導の工夫（３年次）～」と，今回の授業（特に本時）との関連を，次のようにとらえている。

思考力‥「夏草や兵どもが夢の跡」「閑かさや岩にしみ入る蝉の声」に凝縮されている芭蕉の価値観を一人一人に読み取らせる活動を通して高める。
判断力‥「古池や蛙飛び込む水の音」に描かれた蛙の数を，複数の資料から根拠を選択したり，仲間の意見を拠り所にしたりしながら，確定していく活動を通して高める。**（本時）**
表現力‥自分の意見を表明せざるを得ない「討論」という状況を設定し，それに伴う学習環境を整備し，活動を促していくことを通して高める。**（本時）**

上記のことから，本時における観察の視点は以下の２点とする。
①　複数の資料から，自分の意見を裏付ける根拠を選択していたか。
②　自分の意見を，仲間に対して表明していたか。

(4) 展開

学習内容・学習活動	予想される生徒の反応・教師の支援	評価・留意点
①　「古池」句に描かれた蛙の数について自分の考えをまとめる。【３年読むことウ】	**発問：「古池」句に描かれた蛙は何匹ですか。そう考えたのはなぜですか。** ・まずは，自由な発想で考えるように促す。（自学・約３分間）考えがまとまった人から黒板（単	自学の時間を十分に保障する。机間指導を行い，学習への取組が不十分な生徒には助言する。

②　小グループ内で，自分の考えを発表したり，仲間の意見を聞いたりする。	数派／複数派）に，静かにネームプレートを貼るように促す。 ・３人グループを組織し，その中で自らの考えを表明するように指示する。（共学・約７分間） ・単数派が多いことが予想される。「古池」句に対する資料を途中で提示し，揺さぶりをかける。	
③　学級全体で自分の考えを発表したり仲間の意見を聞いたりする。	**発問：芭蕉は「古池」句に何匹の蛙を思い浮かべましたか。そう考えたのはなぜですか。** ・これまで授業で学んできたことを根拠にして，芭蕉の立場で考えるように促す。（自学・約５分間） ・机をコの字型にして，少数派の意見から表明させ，その後は，指名なし討論を促す。（共学・約 20 分間） ＜期待する意見＞ ・私自身は，４匹をイメージした。家族が仲良く揃って家に帰るイメージだ。しかし，芭蕉は１匹をイメージしたのだろう。理由は「閑かさ」句で，１匹の蝉の鳴き声によさを見出しているからである。「しおり」とはそういうものではないか。 ・金子兜太は，複数の蛙が次々と飛び込むところに生命力を見出した。僕も共感するので，僕自身は100匹をイメージした。芭蕉も，自然の生命力を「夏草」句で賛美している。故に，複数と考えたのではないか。	最初は２象限にネームプレートを貼らせ，発問２のあとは，４象限に貼り直すよう指示する。 そう考えた理由は，自分の考えと，芭蕉ならば‥の考えと，２種類について述べるように促す。 指名なし討論を促しながらも，机間指導で指名計画を立て，臨機応変に対応する。 話合いの結果，新しい考えを得たような生徒の意見の変化を見逃さず，全体に紹介する。
④　「古池」句に描かれた蛙の数について根拠を明確にして自分の考えをまとめる。【３年読むことウ】	**指示：最終的な自分の考えと根拠を，ワークシートにまとめなさい。** ・芭蕉自身は１匹でイメージしていたことを伝える。しかしながら，俳句の解釈の仕方は様々でいいし，複数と考えた解釈にもよさがあることを強調して説明する。（まとめ・約３分間）	俳句の「空白を読む楽しさ」「多様な解釈の楽しさ」を理解させる。 根拠を明確にして蛙の数を述べている。

(5) 評価

評価場面・方法	評　価　A	評　価　B
小グループおよび全体における発表場面（観察およびワークシート記述により評価）	自分の価値観及び『おくのほそ道』の記述から読み取った芭蕉の価値観を根拠として，蛙の数を述べている。	自分の生活経験や価値観，或いは「古池」句に関する資料の記述を根拠として，蛙の数を述べている。

※ワークシートは別紙